

(様式6-1)事後評価シート

建設部

砂防課

事業名		急傾斜地崩壊対策等			路河川名等	宮淵			
番号	1	市町村名	松本市		箇所名(ふりがな)	宮淵(みやぶち)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	当箇所は、斜面が急峻で下部には県道及び人家が近接している。また、上部には学校施設、人家があり、斜面最下部の宅地は切り崩れた斜面が露出しており、そのまま放置すれば大規模な斜面崩壊につながる恐れがある。また降雨等による斜面の崩壊、落石、倒木が予想され、人家や公共施設に被害を生じるおそれがある。								
事業目的	地域住民の安全の確保のため急傾斜地崩壊対策工事を実施して民生の安定、保全を図る。								
事業概要	当初工期	H11～H18	費用対効果	-	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	最終工期	H11～H20	完了後経過年数	5	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	擁壁工L=243m 法枠工A=7120m ²			450,000	213,750	22,500	192,375	21,375
	最終事業実績(主な工種)	擁壁工L=63m 法留柵工L=30m 法枠工A=5270m ²			269,000	127,775	13,450	114,997.5	12,777.5
事業期間の延長、短縮理由と分析	事業期間の増は、当初の年次計画に対して予算確保が難航したことによる。								
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	事業費の減は、対策範囲を保全対象として人家を有する範囲のみに縮小したことによる。								
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)								評価
	直接的効果(定量的・定性的)	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の崩壊は発生していない。 ・落石、倒木等の被害も発生していない。 						B	
間接的効果(定量的・定性的)	<ul style="list-style-type: none"> ・法枠内を緑化したことにより景観が向上した。 								
②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)								評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・山の斜面からの照り返しにより、山側の部屋が明るくなったが、夏場の室温が高くなった。 ・山からの落ち葉の量が減って掃除が楽になった。 								B
③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)								評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設本体に特に異常はなく、適切に維持管理されている。 ・ときどき排水が枯葉で詰まり水があふれる。 								B
④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)								評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の崩壊がなく、安心感が得られて、高い評価を得ている。 								A
⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)								評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面对策を行うことで災害に強い地域づくりに貢献している。 								B
改善措置の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、用地買収不能地が事業着手後に判明したが、事業着手前から地域との連携を密にし、地域の特性・要望を把握しておくことが望ましい。 								
今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	事業計画の段階で地域と連携し、事業を進めていくことが必要である。また、ハード対策とあわせて、異常発生時の情報伝達方法の確立、避難方法・経路の確認といったソフト対策の充実を図る必要がある。								
部意見	保全対象の土砂災害に対する安全度の向上が図られた。				行政改革課意見		斜面崩壊に対する安全性の向上が図られ、一定の効果が認められる。		

事業名	急傾斜地崩壊対策等		路河川名等	宮淵	
番号	1	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	宮淵(みやぶち)

【事業計画時の写真】



【事業完了後(現況)の写真】

